



都市型震災が起こったら私たちの生活はどうなるのか 震災取材映像から学ぶ“教訓”

ABC 阪神淡路大震災 取材映像アーカイブ

地図と動画で被害分布を把握

被災者の生の声も多数収録



 神戸田川交差点付近の点検と実情 00:01:19:01.17	 阪急三宮駅ビルの被害 外観 高層下 傾いた全開扉の柱 00:01:19:01.17	 阪急三宮駅東方 陥没した阪急の車両 00:01:19:01.17	 三宮町センター街 崩落したアーケード 00:01:19:01.17
 00:01:19:01.17	 00:01:19:01.17	 00:01:19:01.17	 00:01:19:01.17

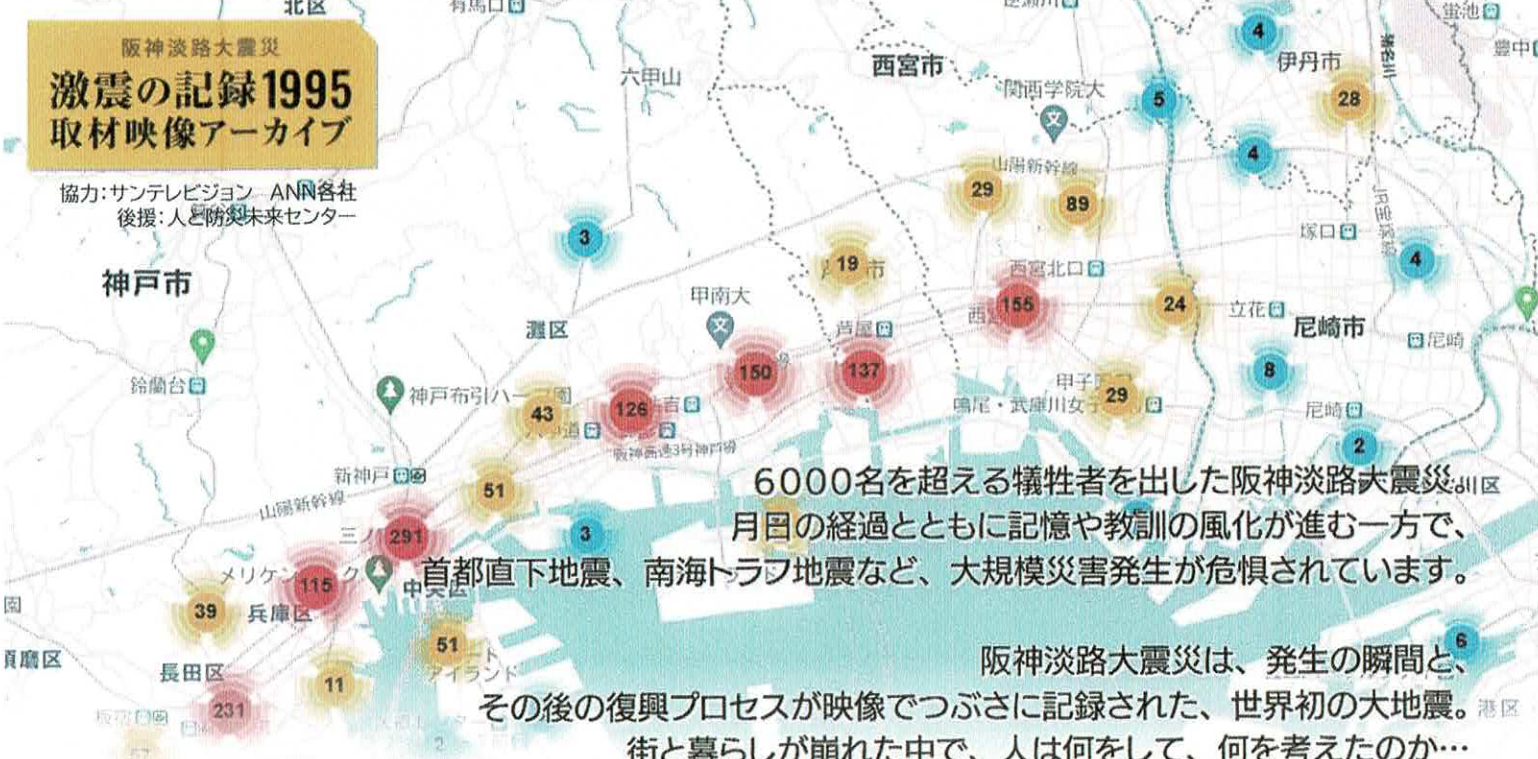
約40時間分・2200クリップ

スマホやタブレットでも見られる

https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/

激震の記録1995 取材映像アーカイブ

協力:サンテレビジョン ANN各社
後援:人と防災未来センター



6000名を超える犠牲者を出した阪神淡路大震災は、11月15日
月日の経過とともに記憶や教訓の風化が進む一方で、
首都直下地震、南海トラフ地震など、大規模災害発生が危惧されています。

阪神淡路大震災は、発生の瞬間と、
その後の復興プロセスが映像でつぶさに記録された、世界初の大地震。
街と暮らしが崩れた中で、人は何をして、何を考えたのか…

映像が伝える「教訓」 共有して、後世につなげたい。

避難所は「難所」だった

安否確認で笑顔に

流れないトイレの惨状

配布食糧不足 救った知恵

停電・断水…病院は

感染症怖い 苦渋の選択

交通途絶 通勤に数時間

医療空白を埋める善意

被災者に向き合う行政

学びの環境 確保に努力

友なぎ集会 教師の言葉

遺体搬出 捜索隊に感謝

※二次元バーコードを読み込むと、テーマに関連した動画を見ることができます。

増補版
大震災
1995.1.17
災害映像が伝えるもの

阪神淡路

阪神淡路大震災から30年
増補版
QRコードで見ることができる映像407

取材映像アーカイブの解説本 好評発売中！ 増補版 スマホで見る阪神淡路大震災 ～災害映像が伝えるもの～

西日本出版社 1980円(税込) 木戸崇之・吉水 彩・朝日放送テレビ著

二次元バーコードを読み取って、スマートフォンで当時の様子が見られる本。
当時起こった事象が時系列でまとめ、映像とともに教訓を学ぶことができます。
テレビカメラが入らなかったところを映した「視聴者提供映像」を巻頭で特集。

震災学習バーチャル神戸ツアー 岡山市立 操南中学校1年生

2020年～毎年



積極的な防災学習を実践する同校。当初は神戸市の「人と防災未来センター」を訪問して語り部さんの話を聞く予定でしたが、**コロナ禍で中止になり、バーチャルツアーに変更されました。**

講師がページの操作法などを少し解説したら、生徒達はすぐさま二人一組でパソコンを操作し、神戸の街を自由に「バーチャル移動」。**30年の時空を超えて、当時の被災者に直接話を聞けるところが震災アーカイブのメリットです。**生徒たちは、警察署が崩れるなどして公助が機能しないことや、水が流れず汚れたトイレに困ったことなど、私たちが伝えたい教訓にみずからたどり着いていました。

避難者がいた教室での出前授業 西宮市立 甲東小学校6年生

2022年1月13日



学校周辺で大きな被害があった西宮市立甲東小学校。国道の橋げたが落ち、新幹線は寸断。そして学校は、地域の人々の避難所になっていました。出前授業の会場は映像の中で住民が避難していた教室。児童らはすぐに気づいて「あ、この部屋や！」と声を上げていました。**身近な場所の映像は「震災が遠い場所で起きた出来事ではない」というリアリティを感じ取れるメリットがあります。**

「食」や「水」「トイレ」など、震災で何に困るかを映像から学び、自分たちでもできる対策を考えてもらいました。『人に助けられる人』ではなく、『人を助ける人』になってほしい」とメッセージを送り授業を終えました。

災害報道は「マスゴミ」なのか？ 関西大学・兵庫県立大学ほか

2020年～随時



災害が起こると被災地に押し寄せ被災者にカメラやマイクを向ける「災害報道」。若者はネガティブな印象を持ち、いわゆる「マスゴミ」の象徴として捉えています。ただ、テレビの災害報道は放送法で義務づけられていて、行政やボランティアが迅速な行動を起こすきっかけにもなっていることを丁寧に説明すると、その見方はガラリと変わります。被災者のインタビューは、災害を伝える古文書や石碑などと同じく、後世の人々に向けた「警鐘」。震災アーカイブは、防災・減災だけでなく、「情報学」や「メディアリテラシー」を学ぶ教材としても有効です。

震災映像からSDGsを考える 神戸市立 星陵台中学校2年生

2023年9月



震災映像を活用して授業をしてくださったのは英語の先生。しかもテーマは「防災」ではなく「SDGs」でした。地震が起こったら学校に行けない、安全な水とトイレも提供できない、食べ物なくなる、仕事もできなくなる…SDGsが目指す持続可能な社会を壊してしまうのが災害です。

映像を見て「このシーンがSDGsの何番に関係しているか」を尋ねられた生徒たちは、思い思いに答えを出しましたが、最終的にはSDGsの17の目標がすべてつながっていると気づきます。そしてある生徒は、17番＝「パートナーシップで目標を達成する」ことの重要性を提案してくれました。

※これまでの活動の一例です

予告

AIで検索する未来のアーカイブ 大阪・関西万博で公開予定

2025年9月1日～4日



いつかは阪神淡路大震災の経験者はいなくなり、詳細な被害の記憶も薄れていきます。「阪神淡路大震災で津波はあったの?」「原子力発電所は大丈夫だったの?」…たとえ「的外れ」な質問を投げかけても、検索した人にとって学びになる映像をアーカイブが推薦してくれたら。そんな発想から「AIが最適映像レコメンドする仕組み」を模索し、大阪・関西万博のメディア催事で公開予定です。貴重な映像を、未来へ、効果的に伝える方法を私たちはこれからも考え続けてまいります。

阪神淡路大震災
激震の記録1995
取材映像アーカイブ

非営利の防災教育・防災啓発活動に
無料でご利用いただけます。

- ご注意
- ▶ 活用事例把握のため、事前に右のフォームからご報告ください。
 - ▶ 無料でのご利用は、WEBサイトからの上映に限ります。
 - ▶ 映像のダウンロードや貸し出しは事前のご相談が必要です。



映像使用希望
報告フォーム

学校現場でも使いやすく



大地震が 起きたら私たちはどうなる？



eラーニング



地震の被害



避難所



食料



水



トイレ



連絡・移動

子どもたちにアーカイブを見て学んで欲しい…でも、過酷な状況が映る映像は、心に負担を与える恐れもあります。そこで被害よりも避難生活の教訓に注目して動画を集めたeラーニングサイト「大地震が起きたら私たちはどうなる？」を開設しました。「避難所」や「食料」「水」「トイレ」「連絡手段」など、子どもの立場でもそれに備えることがイメージでき、教室で議論しながら学べるような構成にしています。

食糧

被災した人々はどんなものを食べているか、量はじゅうぶんか、映像を見てみよう。



地震当日に避難所でもらったおにぎりは
一夜明けた西宮市立中央体育館
避難所



神戸市役所に避難してきたお年寄りの話
神戸市役所 避難者の話



地震翌日の食糧配布。足りなくなつて文句噴出
明成小学校 食糧物資をもらう人の列 物資がなくなり怒る避難者



「ひとり1個」と配られたおにぎり 子供は？
自衛隊給水車 1人1個ずつのおにぎりの配布 18時過ぎ



スーパーマーケットに並ぶお客さんは何を買った？
関西スーパー 買物客



炊飯でたき火、焼いているものは？
明成小学校、グラウンドでメント生活を送る避難者



兵庫県避難所 地震当日に配られている食料は？
一宮町老人福祉センター 避難者 夜



発生20日目 避難所ではどんなものを食べている？
神戸の炊飯出し 避難者

●身近なテーマに絞って

グループに分かれて視聴・ディスカッションを行い、それぞれの学びを発表することで、震災の備えを幅広く意識することができます。

●映像を見る「視点」を提示

被災者が何に困ったかを明確に意識できるように、テーマや動画ごとに課題を設定しています。

●問題を解決するヒントの提示

「地震の被害」「食糧」「トイレ」「連絡・移動」の4つのテーマでは、最低限備えてほしい「解決策のヒント」を短い動画で提示しました。子どもたちだけで議論がまとまらなかった時に視聴を促していただくと、学びを総括するのに便利です。

●地震に備えて食糧をどうしておくべきか、話し合ってみよう。

このジャンルの問題を解決するワンポイント動画 /



このeラーニングサイトは、京都大学防災研究所共同研究(地域防災実践型共同研究(一般))の支援で制作しました。

高速道路倒壊や大規模火災だけじゃない「都市型震災」本当の姿

出張講義 協賛イベント 等のご相談もお待ちしております



朝日放送グループホールディングス株式会社

https://cipher.asahi.co.jp/disaster_archive/